

ドライブ

車を駆る

通り過ぎてゆく建造物

アクセルを調節し

未来へと疾駆している気がする

ベタ凧

波頭の白はごくわずかしか見えない

今日いち日の長さが延長されたような

あるいは金属のように叩き伸ばされたような

軽い

軽い

アクセルが軽い

私自身まで軽くなる

無意識にハンドルを切っている

意識の上には

さっきまでの小人が座っている

手作業に夢中になっている小人が

単純で

しかも永遠に弄ばれている快感

適度に不安定で

適度に自由で

奪われぬように働くつもりだ

しかし奪うつもりなどない

僕の存在を誇示する何ものも

不要なのだ

自動生成されるものを

あらゆるパリエーションを

ひたすら享受する

そこにこそ自由はある

車を駆る

いち日を費やすに足る楽しみ

無限は僕の中にある
明日という日の中に何があるというのか

軽い
軽い
アクセルが軽い
私自身まで軽くなる

(2007.1.24)